

## 課業月における体験活動の先進例

小規模校合同で  
1月（冬期）に実施！

### 大崎上島町小学校5年生「山・海・島」体験活動

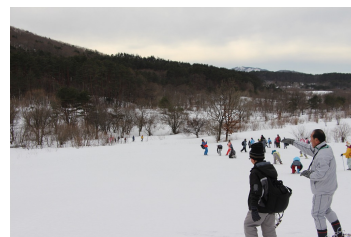
大崎上島町立大崎・東野・木江小学校 対象学年 5年

【体験活動場所・宿泊場所】北広島町

【実施期間】平成27年1月27日（火）～1月30日（金）

#### 【学校紹介】

○近況： 大崎小学校と東野小学校は25年度まで夏季と冬季に1泊2日のキャンプやスキー体験を通じて北広島町の2小学校と交流活動を行ってきた。木江小学校は本年度（平成26年度）夏まで同様に高野町と交流活動を行ってきた。また昨年度は夏季休業中に北広島町で3泊4日の体験活動を行っている。児童は山と島という環境や文化、生活様式の違いを実感するとともに、集団活動や民泊体験を通じて家族への感謝の気持ち・自主性やコミュニケーションの大切さを学んでいる。



○校長名：大崎小学校長 谷川 敏樹

東野小学校長 宗本 祥子

木江小学校長 川口 耕治

○児童数（学級数）：大崎小学校 22名（1学級）

：東野小学校 11名（1学級）

：木江小学校 6名（1学級）

○所在地：大崎小学校（広島県豊田郡大崎上島町中野2078番地）

：東野小学校（広島県豊田郡大崎上島町東野1845番地）

：木江小学校（広島県豊田郡大崎上島町沖浦249番地）

○電話番号：大崎小学校 0846-64-2004

：東野小学校 0846-65-2026

：木江小学校 0846-63-0303

#### 【体験活動のねらい】

- ①長期宿泊体験活動を通して、学校教育目標「自ら学び、心豊かで、たくましい子どもの育成」、めざす子ども像「自ら磨く子、人とつながる子、気力・体力のある子」の実現に向けて、主体的・自立的に活動する児童を育む。
- ②自然にふれる体験を通して、身の回りの自然環境について学び、自然に親しみ自然を守っていこうとする態度を養う。
- ③民泊の方との交流を通じて、山間部での暮らしを学ぶ。
- ④大崎上島町では経験できないスキー体験を通して、基礎的なマナーと技術を習得する態度を育て、家族に対する感謝や思いやりの心を育む。

## 【日程(活動プログラム)】

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
	朝の活動		朝食	午前の活動			昼食	午後の活動				夕食	夜の活動					
第1日	レンタルスキーウェア受け渡し						昼食	雪中キャベツの収穫体験	対面式	田舎暮らし体験	夕食	田舎暮らし体験	入浴	振り返り				
第2日	起床清掃 朝のつどい	朝食	現地へ移動	スキー体験			昼食	スキー体験	田舎暮らし体験		夕食	田舎暮らし体験	入浴	振り返り				
第3日	起床清掃 朝のつどい	朝食	現地へ移動	かんじき作り体験			昼食	アニマルレッキング	かんじき回収	田舎暮らし体験		夕食	田舎暮らし体験	入浴	振り返り			
第4日	起床清掃 朝のつどい	朝食	奉仕活動	現地へ移動	まとめの会			昼食	出発式									

## 【参加児童の学年別、男女別数】

学年	男子	女子	合計
大崎小学校 5学年	11	11	22
東野小学校 5学年	7	4	11
木江小学校 5学年	4	2	6
(特別支援学級)	0	0	0
総計	22	17	39

## 【課業月(冬期)に、合同実施で体験活動を実施する上でのポイント】

<冬季課業中に宿泊体験活動を実施することについて>

- 児童は、島ではめったに降らない雪を体験することを何よりの楽しみにしていた。また、かんじき作りや雪中キャベツの収穫等、自分が生まれ育った環境とは異なる地域での体験や先人の知恵を知ることが大変よい学習となった。
- スキーをしたことがない児童が多いことから、スキー体験も大きな楽しみの一つとなっていた。島では野球、陸上、水泳、バレーは盛んに行われているが、その地域独特の運動やスポーツを体験することも児童にとっては大きな魅力である。
- 宿泊体験を実施するに当たり、何よりも気を遣ったのが健康管理である。この時期は学校でもインフルエンザ等が流行しており、万全の状態で行けるように家庭の方へは何度も健康管理についてお願いをしていた。(途中参加はなし)
- スキーウェアや手袋等を4日間レンタルするのに費用がかかる。
- 緊急事態に対応するため学校からも車両を用意したが、豪雪等に対する専用の装備がされていない車両もあるため、搬送等が心配であった。
- 複式学級の場合、もう一方の学年の4日間の学習の事前準備が大変である。
- 課業日での実施であるため、職員の交代が難しい。

<合同で宿泊体験を実施するにあたっての留意点>

- ・ 宿泊体験活動が課題発見・解決学習となるように、事前・事後学習のための合同での打ち合わせを綿密に行っておくことが必要である。そのためには現地視察も必要である。
- ・ 合同オリエンテーションを設けたが、それまでも合同行事や合同授業等を行い、児童の交流を日常的に深めておくことでより効果が高まると考える。

### 【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置付け	実施場所	指導者
11月	<事前学習> ・北広島町について調べよう。 ・宿泊体験オリエンテーション ・「協力」「責任」について学習する。	2 1 2	総合的な学習の時間 学級活動 道徳	各校	各担任
12月	<3校児童顔合わせ> ・合同オリエンテーション ・結団式 ・親睦を図るための交流活動	2	学級活動	大崎小	各担任
1月 27日 ～ 30日	<3泊4日体験活動> ・雪中キャベツの収穫 ・スキー体験 ・かんじき作り ・アニマルトレッキング ・田舎暮らし体験 ・奉仕活動	24	学校行事 総合的な学習の時間 図画工作 音楽 体育 家庭科	北広島町	各担任
2月	<事後学習> ・感想文、礼状の作成 ・集団活動の振り返り ・体験活動のまとめ	1 3	国語 総合的な学習の時間	各校	各担任

### 【体験活動の概要】

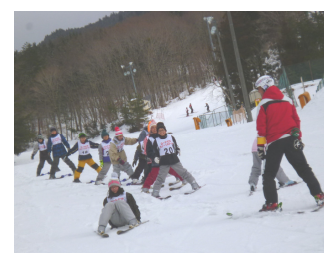
○自然体験（雪中キャベツの収穫・スキー体験・かんじき作り・アニマルトレッキング）

初日は芸北の広大なキャベツ畑で、雪に埋もれたキャベツを手やスコップを使って掘り出す体験を



した。児童は辺り一面の雪の中から次々と現れるキャベツの数に驚くとともに、掘り出したばかりのキャベツをその場で食べて豊かな甘みを味わうことを通じて、農家の人々の作物づくりについての経験と知恵を学ぶことができた。

二日目はインストラクターの指導の下、スキー体験を行った。はじめはスキーを履いて歩くことも難しい状態だったが、厳しくも適切な指導のおかげで徐々に滑れるようになり、全員が斜面を滑ることができるようになった。最後は全員がリフトに乗って山頂に行き、気持ちよく滑り降りることができた。島しょ部では体験できないスポーツに全員が積極的に取り組み、スキーの爽快感を満喫した一日となった。



三日目は北広島町の多くの指導者の方々と一緒にかんじき作りを行った。自然木を輪のように丸め



る技術や紐 1 本で足に履かせる網の部分を作り上げてしまう技に驚きながら熱心に作り方を教わっていた。工業製品としての多くの種類のスノーシューズと実物とを比較しながら、自然の素材で作れることや雪の上を足を取られずに歩ける昔の人の知恵を体験を通じて学ぶことができた。午後からは自分たちが作ったかんじきを履いてアニマルトレッキングを行った。どこまでも広がる雪原を、動物の足跡や木の実を探して歩きながら、自然の雄大さやたくましく生きる生き物の姿を想像し生命の尊さを体全体で感じる事ができた。

#### ○民泊体験（出会い・勤労・感謝）

39名の児童が8班に分かれ、3泊4日の民泊体験を行った。かまくらを作ったり、食事の手伝いをしたりしながら北広島町の「お父さん、お母さん」との生活を送った。なかにはおじいさんやおばあさんもおられ、大家族を体験するところもあった。



家の前の雪かきや布団の上げ下ろし、食材からの食事づくり、部屋の掃除、食事後の大勢での団欒等、普段の生活では味わえない共同生活の中で言葉遣いやマナー、感謝の気持ちやコミュニケーションの大切さを実感を持って学んでいくことができた。また、事前学習で「進んで行動しよう」ということを目標にしていたこともあって、自分から仕事を求めて積極的に行動していた。最終日には、お世話になった家庭に感謝する気持ちを伝えるために奉仕活動の時間を設定した。自分たちで何が出来るかをグループで話し合い、民泊の家の人にも相談しながら決めたことを、グループ全員で感謝の気持ちを込めて一生懸命に行った。出発式ではお礼の歌やメッセージ、記念品等をお渡しして最後の別れを惜しんだ。明るく話しているうちに泣き出すグループもあった。「歌を歌っているとき、涙を我慢しました。」「言葉を伝えるとき、泣きそうになりました。」とお礼の手紙に書いていた。



自分から仕事を求めて積極的に行動していた。最終日には、お世話になった家庭に感謝する気持ちを伝えるために奉仕活動の時間を設定した。自分たちで何が出来るかをグループで話し合い、民泊の家の人にも相談しながら決めたことを、グループ全員で感謝の気持ちを込めて一生懸命に行った。出発式ではお礼の歌やメッセージ、記念品等をお渡しして最後の別れを惜しんだ。明るく話しているうちに泣き出すグループもあった。「歌を歌っているとき、涙を我慢しました。」「言葉を伝えるとき、泣きそうになりました。」とお礼の手紙に書いていた。

**【体験活動の効果をもとめるための取組みのポイント(事前・事後学習)】**

○調べ学習・オリエンテーション

北広島町の自然環境や産業・文化について調べ学習を行い、共通点や相違点について学習した。また、初めての民泊ということで相手方に失礼のないように、また気持ちよく活動させていただくためにどんなことが必要かということ話し合い、「協力」「感謝」「挨拶」「言葉遣い」等を言葉や行動で表すことをこの活動のめあてとした。さらに「自分から」「進んで」を合言葉に行動しようということ相互に確認し合った。

この体験活動に参加するに当たり、3校で合同オリエンテーションを行い、「来年、リーダーとして学校を担い、みんなを導いていける力を付けること」と「参加する全員が一つになること」を目標とすることを全員で確認し、テーマを「円陣 (エンジン, 和)」とした。そして、学校という枠を超えて誰とでも仲間になれるよう集団行動、集団活動を行った。



○礼状作成 (国語科)

学校に帰ってきてから民泊先の方々への礼状作成に取り組んだ。4日間家族のように接し生活したことを思い出しながら、教えていただいたことや楽しかった思い出、感謝の気持ち、別れの悲しさ等が読み手にしっかりと伝わるように書くことを目標に指導した。



(児童のお礼の手紙)

○体験活動のまとめ (総合的な学習の時間)

体験活動の振り返りを基に感想等の交流を行い、まとめを行った。まとめた結果については参観日等を利用して発表を行うようにした。

## 【交流先や施設等との連携及び安全面の配慮事項】

### ○事前

現地のコーディネーターの方を通じてねらいや活動内容、食事関係、活動場所の状況、児童一人一人の健康状態や実態等について確認を行い、民泊に関する児童の実態に応じた配慮事項についての共有化を図った。特に配慮の必要な児童を含むグループの人間関係やその担当者の配置、問題が起こった場合の指導体制について全体で確認を行った。また、緊急時対応連絡網を作成するとともに、緊急事態に対応可能な車両を2台用意して迅速に対応できるよう配慮した。

### ○活動中

児童の体調管理や活動のためのグループ分け、担当者の人数や役割等について各活動の指導者や民泊先と緊密な連携を行った。体調の優れない児童が出たときは担任や養護教諭が民泊先に出向き、迅速に対応した。また、4日間を通してゆとりのある日程を組むことで、一つ一つの活動に集中して取り組めるようにした。

### ○事後

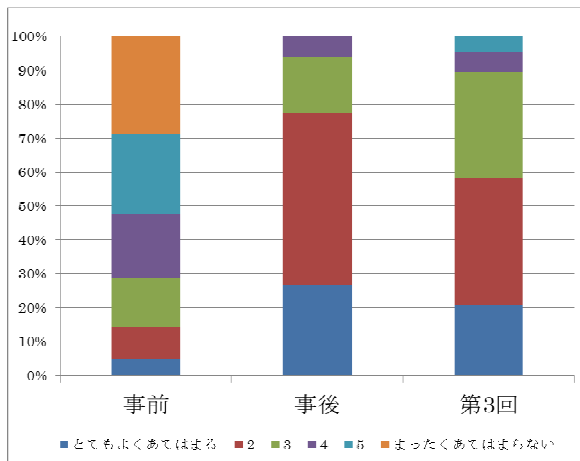
各校で児童一人一人が礼状を作成し、送付した。また、学校に戻ってすぐにコーディネーターの方と連絡をとり、お礼を伝えるとともに気になる児童の様子について報告を行った。来年度の活動内容や日程についても要望等を伝えておいた。

## 【体験活動の成果と課題】

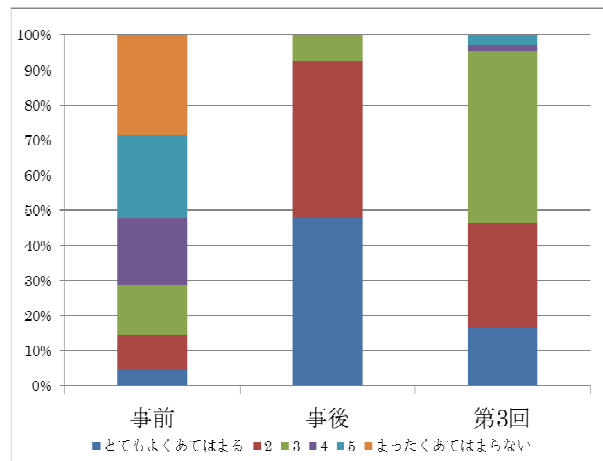
### <成果>

- 児童アンケート結果から、「自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる」「自分にはよいところがあると思う」「相手の立場に立って考えることができる」の項目について、事前と事後では肯定的な意識が高まるという大きな変容が見られた。これは、今回の活動のめあてとした「責任」「協力」「自主性」を常に意識し行動することで、児童も自身に備わる力を確認することができた結果であると考えられる。民泊においては、自分たちから行動しなければ何も始まらないという環境での生活を余儀なくされる。そこで受け入れ先の方々の気持ちを考えながら、仲間と協力して一つの目的を達成するという生活が、挨拶や言葉遣い、コミュニケーションを意識させることにつながっていったと考える。また、そうした行動を可能にしたのは、受け入れ先の方々が児童をお客扱いせず、家族の一員として迎え、温かく、時には厳しく接してくださったからである。民泊先での出会いは児童にとって非常に貴重な体験となった。また、活動において3校の児童が交流できるようなグループづくりにしたことが新たな人間関係づくりの中での自己の再発見に結びついていると考える。
- 民泊先で食事の支度や片付け、掃除、風呂洗い、家の前の雪かき等、様々な仕事を役割として行ったことは、家庭での日常生活を見直すよい機会ともなった。これまで自分たちがいかに家族に支えられていたかを体験を通じて実感し、家族への感謝の気持ちが高まったようである。家に帰ってからは進んでお手伝いをしたり、できることは自分でしたりしようとする意識が高まったことが保護者アンケートの記述等からも伺える。

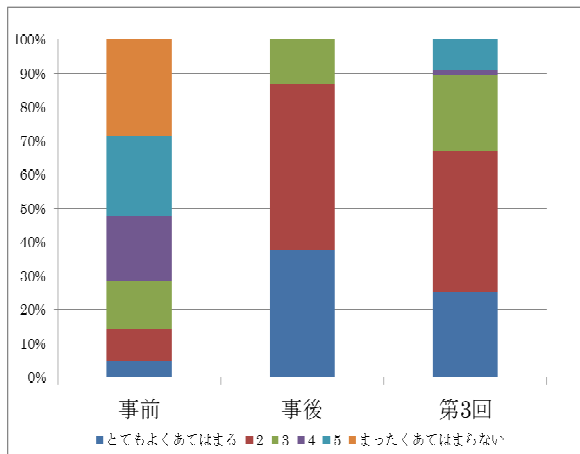
【自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる】



【自分にはよいところがあると思う】



【相手の立場に立って考えることができる】



<出発式での民泊先の方々との最後の交流>



- この間は体験活動で大変お世話になりました。ありがとうございました。一日目は、コースターのつくり方を教えてもらいました。優しく作り方を教えてもらったので上手にできて、家でも使っています。とても気に入っています。二日目、三日目には、雪遊びをさせていただきました。大きなかまくらと雪だるまを作りました。最初は「できるのかなあ」とドキドキ心配でしたが、おじちゃん、おばちゃんがコツを教えてくれて上手にできたのでとてもうれしかったです。島では雪があまり降らないのでまたいつか北広島に行ってやりたいです。今回、北広島に行けて本当に良かったです。本当にありがとうございました。
- 四日間ぼくたちを泊めて、本当に心からのおもてなしをしていただき本当にありがとうございました。一日目の料理では、汁のかくし味を教えてもらいました。とてもおいしかったので今度家でも試してみたいと思います。二日目はソリやかまくらを体験させてもらってとてもいい経験ができました。ソリはぼくたちに体験させようとわざわざ買ってきてくれたので本当にうれしかったです。かまくらはみんなでスコップを使って協力して作ったけどとても疲れました。でも、できたときは本当にうれしかったです。三日目は、前日に作ったかまくらにみんなで入って記念撮影をしました。こんなに大きなのを作ったなんて自分でもびっくりでした。夜ご飯の刺身は、今までのどの刺身よりもおいしかったです。ぼくたちは海の近くに住んでいて、北広島は山の中なのになぜなんだろうと思いました。四日目は、いよいよお別れの日でした。あっという間の四日間でした。出発式ではまだまだこの家に泊まりたいとずっと思っていました。ぼくはこの四日間本当に最高でした。お父さんやお母さんにお願ひしてまた行きたいです。そして、20歳になったらどぶろくを飲みに行きたいです。四日間本当にありがとうございました。(児童礼状より)

<保護者の感想より>

- ・ このたびは三泊四日、大変お世話になりました。「すごく楽しかった!!」と、とても元気に帰ってきました。「民泊の方は、優しくて、おもしろい人で、毎日ごちそうだったよ!帰りたくなかったなあ~, また行きたいよ~。」と言っていました。雪中キャベツがすごく甘くておいしかったこと、雪の中で思いっきり遊んだこと、スキーも滑れるようになって楽しかったこと、かんじきも上手に作れて、トレッキングをしたときに動物の足跡やフンを見つけたこと、民泊先でのみんなとの過ごし方、他の学校の友達とも仲良くなって話をしたこと、奉仕作業はトイレ掃除に決めてピカピカにみがいたことなど、たくさんたくさん話をしてくれました。初めての体験ばかりでいろいろと勉強になってとても楽しかったようです。
- ・ 心の持ち方が変わった気がします。布団たたみを今までは、やったりやらなかったりでしたが、体験活動から帰ってきて毎日必ず行っています。意識づけされているように感じました。
- ・ 進んで布団の上げ下ろしを行うようになりました。また、頼んだことを拒否せずやってくれるようにもなりました。

<課題>

- 児童アンケート結果で事前・事後を比較すると全体的に意識が高まったと言える。学校に帰ってからも児童会活動や6年生を送る会等にその変化がよく表れていた。しかし、3回目のアンケート結果でどの項目も減少傾向が見られることから、体験活動で得られた成果や学び、自己肯定感を持続させる工夫が必要である。

改善策として、事前学習において、めあてや目標を設定する際、児童自身が学んでこようと思うことや身に付けてこようと考えるもの等を明確にし、体験活動後にそれらを家庭や学校でどう生かしていくか、あるいは展開していくかを想定させておくような取組を加えていくことができるのではないかと考える。

- 体験活動そのものについては、現地のインストラクターの方々の指導に負うところが大きい。今回の体験活動の実施で現地の様子や体験活動の内容について把握することができたので、これらのデータを基に、体験活動について学校側の引率者に更にどんな支援ができるのかを、現地の方々と連携をとりながら考えていく。